

解答

史料「大地震二付書簡」[高橋家No.165]

一筆啓上仕候。甚寒之節
御座候得共、先以御両所様方
弥御安泰被成御勤役、珍重
之御儀奉存候。隨而私儀
無異儀在勤仕候間、乍憚
御安意可被成下候。右寒中
為御見舞、為可得貴意
如此御座候。猶期重便之
時候。恐惶謹言。

井上八十八
十一月廿五日 春（花押）

高橋忠左衛門様
猪野新右衛門様
参人リ御中

尚以嚴寒折角御目出可
被成候様、專一之御儀奉存候。乍末筆
御家内様方へ宜敷被仰上可
被下候様、奉頼候。

一、御用状貴（其）節二申上候通、当月
四日五日兩度大地震、実ニ前代
未聞之次第、誠ニ驚人候事ニ御座候
先リ其御地・当地とも別条無之、何寄
之安心ニ御座候。定而江戸表ニ
おいても御別条無御座義と奉存候。
当地は当六月、大地震其後日ニ
震れ、大ニ心配仕候処、追リ相治り
隠（穩）ニ相成候後、九月中大坂天
保山沖へおろしや国船壹艘
渡來、急束御奉行所より御沙汰ニ而
諸家藏屋敷詰之面リ出張

いたし候ニ付、御用場ニ而も御沙汰之程も
難計、何時ニ而も出張相成候様、手宛
仕、則私義御用場ニ相詰居候処、
先日御沙汰も無之退帆ニ相成候得共、
其後、市中人氣不隱、金銀甚

筋御地同近辺大荒之よし
噂承り、猶心配仕候処、此度
之御用状ニ而安心仕候。御文面
之通り箱根山より東、江戸表之
方へ無難之趣何寄之安心ニ奉存候。
何卒此上静謐ヲ奉祈候、且
右ニ書も来春より江戸表ニ而
都而御取入り御入用少リ相成候様
御相談無之候而是実ニ差支
可申義と奉存候。右等之義は追リ
及御相談ニ可申候。且大坂荒所
之義、委敷可申上候処、今日出版
最早来人等有之、寸暇も無之、
依之絵図面ヲ差上申候。是ニ而
御承知可被下候。右之儀、如此
御座候。余は重便万リ可申上候、以上。
一、大乱筆御推諭可被下。

不廻リニ而心配罷在候処、猶又
地震・津波等ニ而大混乱。尤兼而
御承知之通り大坂表は諸国より
入津之場ニ而遠国と取引有之、
金銀融通宜敷所ニ御座候処
入船并地船とも數多打くたけ、
其上死人等多分有之、驚入候折
から諸国之地震津波等之義
追リ申参、此節之所弥不人氣ニ
相成、當冬銀談向甚差支候
次第ニ御座候。何卒程能都合
仕度、是のミ奉願候。且私義當月
五日出立ニ而丹州御米払出役之
心組ニ御座候処、大地震一条ニ而
相見合候処、其後日リ昼夜震、
尤帰領中并大坂御用場其外別条
之有無承糺候上、十日ニ出立仕、同
十九日無滞帰着仕候。丹州表は至而
輕キ事ニ而安心仕候処、東海道